

# 英語科学習指導案

## 単元名「PROGRAM 6 The Great Pacific Garbage Patch」

令和5年11月 3年 指導者 坂本 亜以子

### I 単元の構想

#### 1 単元観

本単元の題材は、海洋プラスチックごみに関する環境破壊の問題を取り扱っている。当時高校生だった青年がそれらを回収するシステムを考案したことと、青年からの"Don't we all want a future that is better than the present?"という問いかけが印象的である。生徒は、レジ袋削減や給食のストロー廃止など、プラスチックごみ減量のための社会的な取組に日頃から参加しているが、自発的に解決策を考えて行動しているわけではない。そこで、社会的な話題に対して生徒が自発的に解決策を考えて行動する活動になるように、生徒にとって身近な存在であるALITの母国マラウイ共和国では教育環境が十分に整備されていないという現状を紹介して、それに対して自分たちに何ができるか考えて実際に行動することを単元の課題に設定する。マラウイ共和国の学生の多くは、十分な学用品や学習環境が整っていない状況で学校教育を受けている。小学校の入学率は高いが、家庭の都合や成績不振などの理由で、修了率は三割程度である。中学校への進学には英語の成績が優秀であることが必須条件であり、進学して教育を受ければ将来就ける仕事の幅が広がる。本学級の生徒も、英語を勉強することが自分自身の可能性を広げ、よりよい未来につながるという思いをもって英語の勉強に励んでいる。またどちらの国の生徒にとっても、教育を受けることは自分の能力を発揮する可能性を広げることになる。このように、初めて交流する相手に手紙を書くために、相手の状況を十分に理解して配慮し、自分との共通点を見つけて内容を熟慮することは、外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせることになり、青年からの問いかけに対する主体的な取組をすることができる価値ある単元である。

本単元の新出言語材料は、関係代名詞（目的格 **which, that**）の制限的用法とその省略であり、これまで複数の文で表現していた内容をより簡潔に伝えたり、一文に含まれる名詞に情報を加えながらより詳細に伝えたりすることができる。言語の使用場面は「特有の表現がよく使われる場面」の内の「手紙や電子メールのやり取り」、言語の働きでは「事実・情報を伝える」の内、「描写する」を扱う。

#### 2 研究との関わり

本研究は、「書くこと」の領域において、既習表現や「書くこと」の言語活動における学習経験を駆使して自分の伝えたい思いを表現する生徒の育成を目指すものである。令和5年度全国学力学習状況調査に対する文部科学省国立教育政策研究所の報告書では、自分の考えとその理由を書いたり話したりすることや、事実や考えなどを整理し、まとまりのある文章を書くことに課題があると報告されている。この課題に対して、英作文完成までの学習過程を三つのSTEPに細分化、段階化して3-STEPとして単元計画に位置付け、学習者同士で学び合うピア・ラーニングを取り入れることで、生徒が見通しと相手意識をもって学習を進められるようにすることを目指す。

本単元では、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて内容面と言語面で学習の見通しをもつSTEP1を「つかむ」過程に配置し、言語面の課題解決をするSTEP2と内容面の課題解決をするSTEP3を「まとめる」過程に配置して手紙を完成させる。社会的な話題を扱っている本単元の題材を、生徒にとって身近な存在であるALITと関連付けながら段階的に学習を進めることで、生徒は必要感をもって単元の課題に取り組むことができる。

#### 3 単元の目標及び生徒の実態

	目 標	生徒の実態
知識及び技能	・ 勉強を頑張る目的をマラウイ共和国の学生と共有できるように、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容で手紙を書くことができるようにする。	・ 関係代名詞（主格）について、87%の生徒がその働きや用法をおおむね理解しているが、それを用いて自分の伝えたいことを英語で書く技能を身に付けている生徒は57%程度である。また、後置修飾の修飾・被修飾の関係を捉えられない生徒が多い。
思考力、判断力、表現力等		・ 読み手の興味を引くための表現を工夫したり、自分の考えや感想を表現する工夫をしたりした生徒は多い

		が、理由や根拠を具体的に示して書くことができる生徒は少ない。
学びに向かう力、人間性等		・対話活動において、対話を継続するために友達と協力する生徒は多いが、友達に助言を求めて自分の表現をよりよくしようとする姿があまり見られない。

#### 4 評価規準

知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関係代名詞（目的格 which, that）やその省略を用いた文の構造や働きを理解している。</li> <li>・関係代名詞（目的格 which, that）やその省略を用いた文の構造や働きを理解を基に、身の回りのものについて説明する技能を身に付けている。</li> </ul>
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・勉強を頑張る目的をマラウィ共和国の学生と共有できるように、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容で手紙を書いている。</li> </ul>
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・勉強を頑張る目的をマラウィ共和国の学生と共有できるように、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容で手紙を書こうとしている。</li> </ul>

#### 5 指導及び評価、ICT活用の計画（全8時間：本時第6時）

過程	時間	■ねらい □学習活動 ★ICT活用に関する事項	知	思	態	◆評価項目<方法（観点）> [記]：記録に残す評価 ○指導に生かす評価 ●評定に用いる評価
つかむ	1	■単元の学習課題を踏まえた手紙を書く試しの活動を通して、単元終末の言語活動における目的や場面、状況等を捉え、単元の学習の見通しをもつことができるようにする。 □ALTのプレゼンテーションを聞いて単元の課題をつかみ、試しの活動を行う。				◆評価項目<方法（観点）> [記]：記録に残す評価 ○指導に生かす評価 ●評定に用いる評価 ◆試しの活動を通して、どのような学習が必要か単元の見通しをもつことができている。 <デジタルワークシート、振り返りシート>
	2	■手紙に書こうとしている内容を口頭で伝え合う活動を通して、言いたいのに英語で言えない表現があることに気づき、言語面の学習の見通しをより明確にできるようにする。 □Writing STEP 1 課題の認識 1-1 伝えたい思いを広げる・深める 手紙を書く目的や場面、状況等を確認して、デジタルワークシートの付箋の内容を、追加、具体化、修正する必要があるか検討する。★ 1-2 表現の穴の可視化 手紙の内容を口頭で伝え合い、英語で表現できなかった付箋をデジタルワークシート上で色分けする。★				
追究する	3	■関係代名詞（目的格）やその省略が用いられた文章を読んで内容を理解することを通して、Boyanが行動を起こしたことに対する自分の意見や考えを、理由と共にBoyan				

記録に残す評価は行わない。ただし、毎時間ねらいに即して生徒の活動の状況を確実に見届けて指導に生かす。

		宛でのメッセージとして書くことができるようにする。 □教科書本文の概要を理解し、Boyan が行動を起こしたことに対する自分の意見や考えを、理由と共に短い文章で書く。★			
	4	■関係代名詞（目的格）が用いられたまとまりのある文章を読んで、新大陸発見に対する自分の意見や考えを、理由と共に Boyan 宛でのメッセージとして書くことができるようにする。 □教科書本文の概要を理解し、海洋プラスチックごみでできた大陸に対する自分の意見や考えを、理由と共に短い文章で書く。★			◆太平洋ゴミベルト発見に対する自分の思いを、理由と共に Boyan に宛てて書いている。 <デジタルワークシート>  記録に残す評価は行わない。ただし、毎時間ねらいに即して生徒の活動の状況を確実に見届けて指導に生かす。
	5	■関係代名詞（目的格）が用いられたまとまりのある文章を読んで概要をつかみ、海洋プラスチックごみに対する自分の意見や考えを、具体例と共に Boyan 宛でのメッセージとして書くことができるようにする。 □教科書本文の概要を理解し、プラスチックごみ問題を解決するための自分の意見を、具体例と共に短い文章で書く。★			◆海洋プラスチックごみに対する自分の意見を、自分のできる改善策と共に Boyan 宛でのメッセージとして書いている。 <デジタルワークシート>
	6	■関係代名詞（目的格）を正しく用いて、マラウィ共和国に送る文房具を一文で説明することができるようにする。 □関係代名詞（目的格）の働きを理解し、文房具のことを一文で書く。★			◆マラウィ共和国に送る文房具のことを、関係代名詞（目的格）を正しく用いて一文で詳しく説明している。 <デジタルワークシート>
まとめる	7	■Writing STEP 1-2 で気付いた表現の穴を、英語で表現することができるようにする。 □Writing STEP 2 文字化 曖昧で複雑な日本語を、具体的で簡単な日本語に言い換えたり、友達と知識を補い合いながら既習表現に結び付けたりして、表現の穴を英語で表現する。★	●		◆自力では表現できなかった部分を、既習表現を駆使して表現している。 <デジタルワークシート、対話分析（知）>
	8	■「書くこと」の言語活動における学習経験を想起させ、伝える順序を再考したり、つなぎ言葉を活用したりして手紙を書くことができるようにする。 □Writing STEP 3 再構築 3-1 伝える順序の再考 これまで書き溜めてきた英文を、読み手にとって分かりやすい構成になるように伝える順序を再考し、文の順番を確定する。★ 3-2 つなぎ言葉の活用 文と文の関係が読み手にとって明確になるようにつなぎ言葉を活用し、内容にまとまりのある手紙を書く。★	●	●	◆「書くこと」の言語活動における学習経験に基づいて手紙を再構築している。 <デジタルワークシート（知、思、態） [記] >

II 第1時の学習（1／8）ALTとのTT

1 ねらい 単元の学習課題を踏まえて手紙を書く試しの活動を通して、単元終末の言語活動における目的や場面、状況等を捉え、単元の学習の見通しをもつことができるようにする。

2 展開

主な学習活動 予想される生徒の反応〔S〕 ★ICT活用に関する事項	◎研究上の手立て ○指導上の留意点 ◆評価項目
1 ALTの母国に関する Teacher's Talk を聞く。 (5分)	○ALTの母国に対する興味や関心を高めるために、マラウィ共和国の位置や特徴などを紹介する Teacher's Talk を行う。
2 単元の課題をつかむ。(15分) ①ALTのプレゼンテーションを聞き、マラウィ共和国の学校の現状を知る。【★提示】 S: 合格しないと卒業できないのは厳しい。 S: テスト勉強をしたいのにできないのは大変だ。 S: ALTは自分もマラウィ出身なのに支援していて、すごい。 ②JTEとALTの対話を聞き、マラウィ共和国の学習環境をよりよくするために、自分たちにできることを考える。 S: ノートや鉛筆を送る S: 机やイスを送る ③学習用具に添える手紙を書くことを単元の活動に設定し、単元の課題をつかむ。	○マラウィ共和国の学校や学生たちが抱えている問題に共感できるように、JTEとALTの対話で以下の点を紹介する。 (1) 初等教育を卒業するために英語の勉強が重要であること。 (2) 学習用具が不足しているので、勉強したくてもできないこと。 (3) ALT自身が支援を行っていること。 ○応援している気持ちや共感する気持ちを伝えるには、学習用具に手紙を添えて送るとより喜んでもらえるとALTから提案し、単元の課題を設定する。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>&lt;単元の課題&gt;                              勉強を頑張る目的をマラウィ共和国の学生と共有できるように、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容で手紙を書こう。</p> </div>	
3 本時のめあてをつかみ、マラウィ共和国の学生に送る手紙を書く試しの活動を行う。(25分) 【★思考の補助】 S: 手紙を書き始める前に何を書くか考えたい。	○単元の学習の見通しをもてるように、手紙でどのようなことを伝えるか内容を決めておくといふことを確認し、本時のめあてを板書する。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>&lt;めあて&gt;                              どんな工夫や学習をすれば、自分の思いを伝える手紙が書けるだろうか。</p> </div>	
S: 自己紹介には部活のことを書こう。 S: 鉛筆はもう使わないから、それを送ろうかな。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>Dear friend,                              Hello, my name is Aiko. I'm from Japan.                              I'm Japanese junior high school. I playing badminton.                              I'll give you some pencils. その鉛筆は、今はもう使っていません。 Please use it.</p> </div> S: 友達が「今はもう使っていない」と鉛筆のことを説明しているのをまねしたい。	○手紙に書く内容を想起しやすくなるように、「自己紹介」と「送るものについて」「勉強を頑張る目的」の3点を項目として立てる。 ◎本単元の自己課題を自覚できるように、英語で表現できない部分は日本語で書いてよいことを伝える。 ○友達が書いた手紙を参考にできるように、友達と交換して手紙を見合うように指示する。
4 本時の学習を振り返り、単元の学習の見通しをもつ。(5分)【★保存・提出】 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>&lt;振り返り&gt;                              S: 英語で書けないところがあったから、書けるようにしたい。                              S: 相手に喜んでもらえるように、手紙に書く内容をもっと増やしたい。                              S: 手紙が箇条書きのメモのようになってしまった。文の順番やつなげ方を工夫したい。</p> </div>	○単元の課題を明確にして次時以降の学習につなげるために、本時の学習を「できたこと」「できていないこと」「さらに工夫したいこと」の3つの視点で振り返るように促す。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>◆評価項目                              試しの活動を通して、どのような学習が必要か、単元の見通しをもつことができている。                              &lt;デジタルワークシート、振り返りシート&gt;</p> </div>

Ⅲ 第2時の学習（2／8）ALTとのTT

1 ねらい 手紙に書こうとしている内容を口頭で伝え合う活動を通して、言いたいのに言えない表現があることに気づき、今後の学習の見通しをより明確にすることができるようにする。

2 展開

主な学習活動 予想される生徒の反応〔S〕 ★ICT活用に関する事項	◎研究上の手立て ○指導上の留意点 ◆評価項目
1 Small Talk をする。 (5分) ALT: What will you send to Malawi? S: I'll give them a notebook.	○支援物資として送ることを想定している学用品を紹介し合う Small Talk を行う。
2 前時の手紙を読み返して単元の課題を再設定し、本時のめあてをつかむ。 (10分) ①試しの活動を振り返る。 S: 自己紹介と送るものに加えて、支援する理由が書いてあると相手は嬉しいと思う。 ②教科書の登場人物による問いを紹介して、単元の課題を再度確認し、本時のめあてをつかむ。 ALT: Do you want a future that is better than now? This question is from a boy who made a system to clean oceans when he was sixteen. JTE: What must we do to make a better future? S: We must study hard, and think about the world. S: 前はマラウイ共和国の学生を応援することしか書いていなかった。自分たちも勉強を頑張る必要があることを伝えたい。 S: 内容が増えたら英語で表現できるかどうかの確認もしたい。	○自分の思いが手紙に書かれているかどうか確認できるように、マラウイ共和国の学生になったつもりで友達の手紙を読んで、手紙の内容について感想を伝え合うように促す。 ○マラウイ共和国の学生を支援する理由を明確にすることができるように、海洋プラスチックごみ問題の解決に向けて行動を起こした青年の問いかけを提示する。 ○マラウイ共和国の学生を支援したいと思った自分なりの思いが伝わる手紙が書けるように、前時の手紙にどのような内容を加える必要があるか問いかける。
<めあて> 自分の思いを英語で書いて伝えるには、どのような工夫をすればよいだろうか。	
3 3-STEP Writing STEP 1 課題の認識 (30分) ①STEP 1-1 伝えたい思いを広げる・深める 【★思考の補助】 S: 将来の夢は具体的に職業名で書いた方が相手に分かりやすい。 ②STEP 1-2 表現の穴の可視化 【★思考の補助】 S: If you write a letter to me with 私が送った鉛筆で、I'll やる気が上がる。 S: I'll study English hard to enter a high school. 高校や大学で勉強すれば、将来の幅が広がる。勉強することで、未来を変えることができる。 S: 「私が送った鉛筆」を英語でどうやって言えばよいか分からなかった。 S: I study hard at my high school, I can choose my job.と尝试してみたけど、伝わらなかった。その付箋の色を変えておこう。	◎単元の課題に沿うように内容を追加・修正できるように、三人組で各自のデジタルワークシートを見ながら相談し合うように促す。 ◎検討した内容を英語で表現できるか確認するために、口頭で友達に伝える活動を行う。 ○口頭で表現した文が、相手に伝わったかどうか確認できるように、聞き手は一文ずつ日本語で内容を確認するように指示する。 ◎言語面における課題を可視化し、何ができるようになればよいのかをより明確にするために、口頭で表現できなかったものをデジタルワークシート上で色分けするように促す。
4 本時の学習の振り返りを行い、次時への見通しをもつ。 (5分) 【★保存・提出】 <振り返り> S: 内容を見直したら、手紙の意図がはっきりした。英語で言えないところがあった。 S: 自分の思いを伝えられる内容になった。次は残っている日本語を英語にしたい。	○前時との変容を自覚して次時以降の課題を明確にできるように、本時の学習を「前回と比べて変化したこと」「手紙の完成までがんばったこと」の二つの視点から振り返るよう促す。 ◆評価項目 英語で伝えられない表現の穴があることに気づき、言語面の学習の見通しをもっている。 <振り返りシート>

IV 第3時の学習 (3/8)

1 ねらい 関係代名詞 (目的格) やその省略が用いられた文章を読んで内容を理解することを通して、Boyan が行動を起こしたことに対する自分の意見や考えを、理由と共に Boyan 宛てのメッセージとして書くことができるようにする。

2 展開

主な学習活動 予想される生徒の反応 [S] ★ICT活用に関する事項	◎研究上の手立て ○指導上の留意点 ◆評価項目
1 Small Talk をする。 (5分) T: Which club will you join in high school? S: I will join a badminton club. T: Who is your favorite badminton player? S: Wata-Gashi pair.	○自分の未来について楽しみな気持ちをもてるように、高校で入りたい部活動をテーマにして Small Talk を行う。
2 本文を聞いて概要を理解する。 (20分) ①新出単語の発音と意味を確認する。 ②オーラルイントロダクションを行い、本時のめあてをつかむ。 S1: You are great! S2: Thank you. Why do you think so? S: great と伝えられたら、そう思ってくれる理由を聞きたくなる。	○Boyan にメッセージを書いて自分の思いを伝えるには、加えた方がよい内容があることに気付けるように、自分を賞賛するだけのメッセージを受ける体験をさせる。
<めあて> Boyan の行動に対する自分の思いを書いて伝えるには、誉め言葉の他にどのような内容を加えればよいか。	
③リスニングで概要を理解する。 【★再生】 S: 生き物を集めるシステムを作ったのかな。 S: 生き物を傷つけないようにごみを集めるシステムを作った。 S: ダイビング中にごみが多かったことがきっかけだったようだ。	○教科書本文の概要を捉えられるように、聞き取りの視点 (Boyan が作ったシステムの概要、システムを作った動機) を提示する。
3 Boyan の行動に対する自分の意見や考えを、理由と共に Boyan 宛てのメッセージとして書く。 (10分) S: Huge screens catch the plastic ....のところがすごいと思う。 S: I think your action is great because huge screens catch the plastic without hurting sea animals.	○Boyan の行動に対する自分の意見や考えの理由を明らかにできるように、本文を読んで、自分がすごいと思う Boyan の行動を示す部分に下線を引かせる。 ○コメントが思い浮かばない生徒が参考にできるように、デジタルワークシートに記入して一覧表示する。 【★一覧表示】 ◆評価項目 自分の意見や考えを、理由と共に Boyan に宛てて書いている。 <デジタルワークシート>
4 音読練習をする。 (10分) Slash Reading, Chorus Reading, Buzz Reading	○意味を意識しながら読めるように、段階的に音読練習をする。
5 本時の学習の振り返りを行い、次時への見通しをもつ。 (5分) 【★保存・提出】	○自分の意見や考えを書いて伝えるために加えた内容や使用した表現を、振り返りシートに記入するように促す。
<振り返り> S: 自分の意見や考えを伝えるには、理由も加えるとよいことが分かった。 S: 教科書の文を使って、自分の意見や考えの理由を伝えることができた。	

V 第4時の学習(4/8)

1 ねらい 関係代名詞(目的格)が用いられたまとまりのある文章を読んで、新大陸発見に対する自分の意見や考えを、理由と共に Boyan 宛てのメッセージとして書くことができるようにする。

2 展開

主な学習活動 予想される生徒の反応〔S〕 ★ICT活用に関する事項	◎研究上の手立て ○指導上の留意点 ◆評価項目
1 Small Talk をする。(5分) T: What color car do you want to buy in the future? S: I want to buy a blue car. T: How will you feel when you get a car? S: I'll be excited.	○高校卒業後の自分の未来について楽しみな気持ちをもてるように、車を運転するかどうかについて Small Talk を行う。
2 本文を聞いて概要を理解する。(20分) ①新出単語の発音と意味を確認する。 ②オーラルイントロダクションを行い、本時のめあてをつかむ。 S: 新大陸について具体的に知って、感情以外のことも伝えたい。 T: How do you feel if we find a new land? S: I'll be excited! ....	○本文への関心を高められるように、大陸が増えたらどう思うか問いかける。 ○前時の学習を振り返り、自分の思いを伝えるために加えた方がよい内容は何か問いかける。
<めあて> 新大陸発見に対する自分の思いを伝えるには、感情の他にどのような内容を加えればよいか。	
③リスニングで概要を理解する。【★再生】 S: 太平洋で大陸を発見した。プラスチックごみが浮いている。 S: 大きさが聞こえたけど、あまり聞き取れなかった。	○教科書本文の概要を捉えられるように、聞き取りの視点(新大陸の正体と大きさ)を提示する。
3 太平洋ゴミベルト発見に対する自分の思いを、理由と共に Boyan 宛てのメッセージとして書く。(10分) S: 大陸は大量のプラスチックごみでできていた。 S: ゴミベルトは五つもある。 S: 最大のものは日本の4倍の大きさ。 S: I'm surprised that the "land" was made of big and tiny plastic pieces. S: I'm shocked that the new "land" was a huge amount of garbage floating in the ocean.	○新大陸発見に対する自分の思いとその根拠を捉えられるように、本文を読んで、新大陸発見に対する自分の思いの根拠となる部分に下線を引くように指示する。 ○コメントが思い浮かばない生徒が参考にできるように、デジタルワークシートに記入して一覧表示する。【★一覧表示】 ◆評価項目 太平洋ゴミベルト発見に対する自分の思いを、理由と共に Boyan に宛てて書いている。 <デジタルワークシート>
4 音読練習をする。(10分) Slash Reading, Chorus Reading, Buzz Reading	○意味を意識しながら読めるように、段階的に音読練習をする。
5 本時の学習の振り返りを行い、次時への見通しをもつ。(5分)【★保存・提出】 <振り返り> S: 驚いたのは、大陸がごみの大陸だったから。理由を加えて伝えた。 S: 理由を伝える because を、PROGRAM 1 で学習した I'm ○○ that ... の表現に変えた。	○自分の感情を書いて伝えるために加えた内容や使用した表現を、振り返りシートに記入するように促す。

VI 第5時の学習（5／8）ALTとのTT

1 ねらい 関係代名詞（目的格）が用いられたまとまりのある文章を読んで概要をつかみ、海洋プラスチックごみに対する自分の意見や考えを、具体例と共に Boyan 宛てのメッセージとして書くことができるようにする。

2 展開

主な学習活動 予想される生徒の反応〔S〕 ★ICT活用に関する事項	◎研究上の手立て ○指導上の留意点 ◆評価項目
1 Small Talk をする。 (5分) ALT: What was your dream when you were little? S: (answer) ALT: (reaction) What is your dream now? S: (answer)	○未来について楽しみな気持ちをもてるように、子供の頃の夢と現在の夢をテーマにして Small Talk を行う。
2 本文を聞いて概要を把握する。 (20分) ①新出単語の発音と意味を確認する。 ②JTEとALTのやり取りを聞き、本時のめあてをつかむ。 S: ごみと一緒に泳ぐのは魚たちがかわいそう。 S: 生活用品がごみになってしまっている。 S1: We should reduce our use of plastics and gather the garbage in the sea. S2: I think so too. Tell me your idea. S: 自分が Boyan だったら、実際にどんな行動できるか具体例を聞きたい。	○普段使用している生活用品で太平洋ゴミベルトができていることを実感できるように、実際の海洋プラスチックごみの写真を提示する。 ○教科書本文の最後の文を活用して対話を継続させる体験を通して、Boyan にメッセージを書いて自分の意見を伝えるには、加えた方がよい内容があることに気付けるようにする。
<めあて> 海洋プラスチックごみを問題視していることを Boyan に伝えるには、他にどのような内容を加えればよいか。	
③リスニングで概要を理解する。 【★再生】 S: プラスチックをエサと間違えて食べてしまう。 S: 人間が捨てたごみが生き物を殺している。 S: 2050年には魚よりごみの方が多くなる。	○教科書本文の概要を捉えられるように、聞き取りの視点（現在と将来にどのような影響があるか）を提示する。
3 海洋プラスチックごみに対する自分の意見と、自分にできる改善策と共に Boyan 宛てのメッセージとして書く。 (10分) S: The plastics that humans throw away kill many sea animals.に下線を引こう。 S: We should reduce our use of plastics. We can use eco-bags to get a better future. S: We should reduce our use of plastics. We can separate plastic garbage from paper, then we can find how much plastics we usually use.	○海洋プラスチックごみに対する自分の意見の根拠となるように、本文を読んで、海洋プラスチックごみがもたらす被害を示す部分に下線を引くように指示する。 ○コメントが思い浮かばない生徒が参考にできるように、デジタルワークシートに記入して一覧表示する。 【★一覧表示】 ◆評価項目 海洋プラスチックごみに対する自分の意見を、自分にできる改善策と共に Boyan 宛てのメッセージとして書いている。 <デジタルワークシート>
4 音読練習をする。 (10分) Slash Reading, Chorus Reading, Buzz Reading	○意味を意識しながら読めるように、段階的に音読練習をする。
5 本時の学習の振り返りを行い、次時への見通しをもつ。 (5分) 【★保存・提出】 S: すでに行動を起こしている Boyan に対して、自分はどんな行動ができるのか具体例を伝えるとよいことが分かった。給食でストローを使わないと書いたので、実際にそうしようと思う。どのくらいのプラスチックごみが減るか知りたくなった。	○意見や考えとその根拠をつなぐために使用した表現を振り返り、振り返りシートに記入するように促す。

Ⅶ 第6時の学習（6／8）ALTとのTT

1 ねらい 関係代名詞（目的格）を正しく用いて、マラウィ共和国に送る文房具を一文で説明することができるようにする。

2 展開

<p>主な学習活動 予想される児童(生徒)の反応〔S〕 ★ICT活用に関する事項</p>	<p>◎研究上の手立て ○指導上の留意点 ◆評価項目</p>
<p>1 Warm up を行い、本時のめあてをつかむ。 (5分) ○ALTが母国のものを一文で説明するのを聞いて、何を説明しているのか写真を選ぶ。 ALT: This is a very important system which people use to get water. S: 説明の前半だけでは分からないけど、最後まで聞くと分かる。 S: 日本のものも一文で紹介できそうだ。</p>	<p>○何を説明しているのか推測しやすくなるように、写真を提示する。  ○本時のめあてをつかめるように、自分たちも同じように日本のものを説明する活動に取り組むことを提案する。</p>
<p>&lt;めあて&gt; 関係代名詞（目的格）を用いて一文で詳しく説明するよさを生かすと、自分が送る文房具はどのように説明できるか。</p>	
<p>2 対話文を読んで、関係代名詞目的格の働きや使用場面を理解する。(20分)  ①新出単語の発音と意味を確認する。 ②関係代名詞（目的格）を使用している対話を読んで、セリフの意味を考える。 S: 意味は分かるけど、関係代名詞のすぐ後が動詞ではない。 S: 関係代名詞の後が主語・動詞の構造になっている。二文に分けると、動詞の後に it や them など代名詞がある。 S: 関係代名詞が見えなくても、意味が分かった。  ③Scene 2 のリスニング問題に取り組む。 S: 先行詞が人物だけど、目的格のときは who を使っていないかった。  ④音読練習をする。 Slash Reading, Chorus Reading, Pair Reading</p>	<p>○関係代名詞が主格以外の働きをしていることに気付けるように、関係代名詞の後ろの語の品詞に着目している生徒を意図的に指名して関係代名詞節の文構造を説明させる。 ○関係代名詞が省略されていることに視覚的に気付けるように、生徒が説明した文構造を板書して示す。  ○犯人探しのリスニング問題で関係代名詞（目的格）に who を用いていないことに気付けるように、関係代名詞と先行詞に着目して再度、問題を聞くように指示する。</p>
<p>3 Writing STEP 1 のデジタルワークシートを見返して、文房具を一文で詳しく説明する。(20分)</p> <p>S: I'll give you crayons which I used when I was in elementary school.</p>	<p>○マラウィ共和国に送ると想定した文房具を二文で説明している例を紹介し、関係代名詞目的格を用いて一文にする。</p> <p>◆評価項目 マラウィ共和国に送る文房具のことを、関係代名詞（目的格）を正しく用いて一文で詳しく説明している。 &lt;デジタルワークシート&gt;</p>
<p>4 本時の学習の振り返りを行い、次時への見通しをもつ。(5分) 【★保存・提出】</p> <p>&lt;振り返り&gt; S: 文房具のことを一文で説明したら、自分が使っていたものだということが分かりやすくなった。</p>	<p>○二文以上で説明していた文と比較して分かったことを振り返りシートに記入するように促す。</p>

Ⅶ 第7時の学習（7／8）

1 ねらい Writing STEP 1-2 で気付いた表現の穴を、英語で表現することができるようにする。

2 展開

<p>主な学習活動 予想される児童(生徒)の反応〔S〕 ★ICT活用に関する事項</p>	<p>◎研究上の手立て ○指導上の留意点 ◆評価項目（観点）</p>
<p>1 Warm up をして、本時のめあてをつかむ。 (10分)</p> <p>Warm up: 復習 手紙のデジタルワークシートを基に、手紙で伝えたい内容を口頭で英語にしてペアで伝え合う。 S: まだ日本語が残っているから英語にしたい。</p>	<p>◎デジタルワークシート上の付箋の内容をもう一度、口頭で英語で表現させて言語面の課題を明確にし、本時のめあてをつかめるようにする。</p>
<p>&lt;めあて&gt; 自力では表現できなかった部分を、どのように工夫すれば自分たちの力で英語で表現することができるか。</p>	
<p>2 3-STEP Writing STEP 2 文字化 (35分)</p> <p>①日本語の言い換え S: 文が長いから短い文に分けよう。 S: 「貢献する」は学習してないけど、「助ける」とか「援助する」と言い換えられる。 S: 子供たちの面倒を見る仕事って、保育士とか具体的に書いた方が相手に分かりやすいと思う。</p> <p>②既習表現の活用 S: 小学校は elementary school だから教えてあげよう。 S: 感情に理由を加えるときは、that でつなげられると復習したよ。</p> <p>③再度、個人でメモを修正する。 S: 自分の番のときには to pass the entrance exam としたけど、次の人のときに用いた to study in high school に変えよう。</p> <div data-bbox="165 1305 804 1507" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>S: If you write a letter to me with a pencil which I sent you, I can study English hard to write you back. S: I'll study English hard to study in high school. I can get a good job, and make my future better.</p> </div>	<p>◎ピア・ラーニングで友達に積極的に助言できるように、助言する視点（日本語自体の言い換え、既習表現の活用）を示す。 ○他グループの意見も参考にできるように、便利な表現を用いている例を板書する。 ○ピア・ラーニングが円滑に進むように、時間を区切って各個人のデジタルワークシートを検討できるようにする。</p> <p>○よりよい表現を活用できるように、他の人が使用した表現を取り入れてよいと助言する。</p> <div data-bbox="831 1294 1426 1451" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>◆評価項目 既習表現を駆使しながら英語で書いて表現している。 &lt;デジタルワークシート、対話分析（知）&gt;</p> </div>
<p>3 本時の学習の振り返りを行い、次時への見通しをもつ。 (5分) 【★保存・提出】</p>	<p>○日本語のままだった部分を英語で表現できたことを賞賛し、友達と一緒に考えることの利点を振り返りシートに記入するように指示する。</p>
<p>&lt;振り返り&gt; S: 友達に教えてもらったり、他の人の視点で日本語を整理したり言い換えたりしたら、英語で書けることが多くなった。客観的な視点で見てもらえてよかった。 S: 自分では言いたいことを整理して将来のことを付箋に書いたつもりだったけど、具体的な職業名を書いた方が分かりやすいという友達からの指摘が役に立った。</p>	

Ⅷ 第8時の学習（8／8）ALTとのTT

1 ねらい 「書くこと」の言語活動におけるこれまでの学習経験を想起させ、伝える順序を再考したり、つなぎ言葉を活用したりして手紙を書くことができるようにする。

2 展開

主な学習活動 予想される児童(生徒)の反応〔S〕 ★ICT活用に関する事項	◎研究上の手立て ○指導上の留意点 ◆評価項目（観点）
1 Small Talk をする。 (10分) ----- JTE: Which do you like to read, a letter or an email? S: I like to read a letter. Handwriting makes me happier.	○メッセージを受け取ることよさを友だちと共有できるように、手紙か電子メールかをテーマにして Small Talk を行う。
2 Writing STEP3 再構築 (35分) ①本時のめあてをつかむ。 S: 相手にとって分かりやすい手紙になるように、順番を考えよう。 <めあて> 自分の思いや考えが読み手にとって分かりやすい手紙にするには、どのように工夫すればよいか。	○本時の学習内容の見通しをもてるように、前時の振り返りシートの記述から、手紙の構成に課題を感じている生徒を意図的に指名する。
②STEP 3-1 伝える順序の再考 S: 自己紹介の次に勉強を頑張る目的を書いて、最後に文房具を送ることを書こう。 S: 自己紹介に好きなものを書くに書いたけど、省いた方がよさそうだ。 ③STEP 3-2 つなぎ言葉の活用 S: And....を In addition,...に変えよう。 S: You can study harder when you get your favorite stationery.の前に Based on my experience, I can study harder when .... とするとよいと思う。 ④宛名や結びの言葉を付け加え、手紙を清書する。 S: I look forward to hearing from you.を加えよう。 S: 結びの言葉には、Your friend,を使いたいな。 Dear friend, Hello, my name is Aiko. I'm a Japanese junior high school student. I want to be a teacher, so I study hard. My Malawian teachers taught us that you studied hard too. Then I decided to give you some pencils that I don't use now. Please use it when you study. Also, I hope your dream come true. I look forward to hearing from you. Your friend, Aiko	◎これまでに学習した基本的な段落構成を想起させながら、STEP 1 のワークシート上で手紙を再構成するように促す。 ◎「書くこと」の言語活動における学習経験に基づいて読み手にとって分かりやすい構成になるように、ピア・ラーニングで互いの手紙を見合って伝える順序を検討させる。 ◎文と文の関係を明確にしてまとまりのある手紙になるように、つなぎ言葉を活用することをALTが提案する。 ◎「書くこと」の言語活動における学習経験に基づいて適切なつなぎ言葉を生徒が選択できるように、つなぎ言葉をリストにして提示する。 提示するつなぎ言葉のリスト In addition, Also, Then, (Even) Though, since, In my opinion, Based on my experience, ○宛名や結びの言葉を提示して、持参した便箋に清書するように促す。 ◆評価項目 文の順序を工夫したり、つなぎ言葉を活用したりしながら、まとまりのある内容で手紙を書いている。 <デジタルワークシート（知、思、態）>
3 本時の学習の振り返りを行う。 (5分) 【★保存・提出】 <振り返り> S: 伝える順番を変えて文房具のことを最後にしたら、「それを使って勉強してほしい」とまとめることができた。返事が来るといいな。 S: つなぎ言葉を加えたら、文章にまとまりが出た。相手がどんな反応をするのか知りたい。	○内容面・言語面の両方が変容して充実した手紙が書けたことを自覚できるように、試しの活動の手紙と比較して、単元の振り返りを行うように促す。